

**平成30年度
自己評価報告書**
(専門学校等評価基準 Ver.4.0 準拠版)

令和元年6月1日

ヤマザキ動物専門学校

目 次

教育目標と本年度の重点目標の評価.....	1
基準 1 教育理念・目的・育成人材像	4
基準 2 学校運営	5
基準 3 教育活動	6
基準 4 学修成果	7
基準 5 学生支援	8
基準 6 教育環境	9
基準 7 学生の募集と受入れ	10
基準 8 財務	11
基準 9 法令等の遵守	11
基準 10 社会貢献・地域貢献.....	12

教育目標と本年度の重点目標の評価

学校の教育理念・目標

(1)建学の精神

「生命への畏敬」

「職業人としての自立」

“人間は、地球上に存在する多種多様な生命に対し、尊敬の心を持ち、生態系の摂理の中で生かされている生命であるという思想のもと、共に生きるものに限りない愛を注ぐ” この精神を通して調和のとれた平和な社会の建設に寄与する豊かな人間性と幅広い視野を持つ人間教育を行う。

(2)教育理念

「生命を生きる」

動物愛護の精神のもと、人間が自分たちよりも小さな弱い立場の生命に思いやりの心を忘れず、動物たちと豊かに共生すること。

「礼節や思いやりの心を大切にする」

全ての学習を通して、正しい人生観、社会観、自然観の思想を背景に、学問・技術の修得にとどまらず、礼節や思いやりの心を育み、人として備えるべき教養を重視。

(3)3つのポリシー

アドミッションポリシー

- ・本校の建学の精神と教育理念に共感する者。
- ・動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者。
- ・動物に関わる職業を目指し、コミュニケーションを大切にする者。

カリキュラムポリシー

- ・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。
- ・専門科目および総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身に付け、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。

ディプロマポリシー

- ・就業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。
- ・人と動物の架け橋となる動物のスペシャリストとしての使命感を有し、動物看護、グルーミング、トレーニング等に関する知識、技術および能力を身に付けている。

平成30年度重点目標

1) ヤマザキ動物専門学校経営に係る事業計画の中期目標

ア. 安定的な入学者の確保

平成30年3月末日の入学見込み者は昨年度を若干上回る見込みであるが、学生募集環境は更に厳しい状況が続くと予想される。その要因は、一つには、2017年から段階的に高等学校卒業予定者が減少する点と、二つには、動物看護系大学が増加したためと推察している。今後は、同分野の大学・専門学校との差別化と学生募集に一層の努力と工夫が求められる。

イ. 退学者の低減

収入の安定確保の一環として退学者の低減を図る必要がある。退学率の低減についてはクラスアドバイザー（担任）、アシスタントアドバイザー（副担任）及び学年主任を中心として、個人相談等様々な努力を行っている。今後も各学年において過去の平均退学率を下回ることを目標とし、更なる退学率低減を目指す。

2) 平成31年度学生募集における重要事項と事業計画

平成26年度より学費分納支援や姉妹兄弟・親子入学支援、奨学金の更なる充実により受験生が受験しやすい環境を整えている。特に、特待生制度と学費分納制度については受験生・保護者にとって経済的な問題を解決する一手段としている。学校説明会は、教職員を中心に年34回実施しており、就職実績と業界における活躍をアピールして入学後の具体的な職業イメージを伝えている。本校の入試では、戦略的にAO入学試験を推進し、受験生にはより一層早い時期での受験の機会を設ける。

3) 教育における重要事項と事業計画

ア. カリキュラム

就職対策や動物看護師統一認定試験対策を含んでいる「キャリアアップ」「動物看護学総合」の授業充実を図ってきた。「AHT実習」、「臨床検査実習」、「グルーミング実習」、「トレーニング実習」では復習を計画的に取り入れ反復し、教育効果を高めている。また、動物看護師統一認定機構推奨コアカリキュラムに基づき本校のカリキュラムをより充実させるよう検討を進め、資格取得率の向上を図る。

イ. キャリア教育・就職支援

専門学校はきめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、本校ではきめ細かい学生指導を使命として、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、旧来の就職支援体制を学生の立場に立って相談・指導を実施してきた。目標として全卒業生に対して80%以上の就職、希望者に対しては95%以上の就職実績を達成し続けている。これを継続させるために、就職支援課による正科目「キャリアアップ」をより一層強化する。

ウ. 授業評価・自己点検

科目別に実施している授業評価アンケートについては、講師自身が授業の励みとするとともに、授業の改善に活かしている。この方法を今年度も踏襲する。また、自己点検に関しては、平成27年度から当校教職員全体で実施しており、適切な評価に達していない評価項目に関しては次年度以降の改善課題として取り組んでいく。また、NPO法人私立専門学校等評価研究機構における研修会や他団体の管理職研修への参加を行う。同機構の第三者評価については、評価基準が大手の学校向きのため実施は検討中である。今後、外部評価に耐えうるように一層の質の向上を図る。

エ. 新学科設置

平成31年4月に新学科の設置を予定している。これは現、動物看護・美容学科（3年制）をヤマザキ動物看護専門職短期大学として改組する計画および、動物看護学科（2年生）と動物美容・トレーニング学科（2年生）を平成31年3月で募集停止し、新たに動物看護・美容・トレーニング学科（2年制）として動物看護に特化したカリキュラムを土台に動物美容およびイヌのトレーニングを総合的に学び、コンパニオン・アニマルのトータルケアを学べる学科の新設を目指すものである。

重点目標・計画の達成状況

1) 学科の募集停止と名称変更

専門職短期大学の法制化に伴い、産業界の要望等により動物看護師の職域拡大を目指して、動物看護・美容学科（3年制 入学定員80名）の定員を振り替えて、ヤマザキ動物看護専門職短期大学（3年制、入学定員80名）を設置認可申請した。それに伴い、動物看護・美容学科を募集停止した。また、動物美容・トレーニング学科（2年制 入学定員40名）及び動物看護学科（2年制 入学定員40名）の募集を停止するとともに、平成31年度より動物看護学科を動物看護師統一認定機構の新コアカリキュラムに対応した動物看護・美容・トレーニング学科（2年制 入学定員40名）に名称変更するため、渋谷区へ届出を行った。

2) 職業実践専門課程

職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成することを目的として専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能について組織的な教育を行うため、文部科学省に動物看護学科を職業実践専門課程の申請を行い、文部科学大臣より平成31年3月5日に認定を受けた。

3) 教育研究

校内で行われている授業のほかに、社会の一線で活躍している文化人や専門家によるセミナー授業、獣医学系大学や動物園でのエクスターン授業、文化祭やスポーツデーなどの学校行事をとおして、現場での即戦力として活躍できる「総合力」を育成している。

4) 学生支援

本校では、卒業内定までのプロセスとして、1年生から卒業後に備えたカリキュラムを設けている。具体的には平成25年度から、計数等基礎学力が不足している1年生に対しリメディアル教育を実施している。また、1～3年生インターン研修では併設の動物病院とグルーミングサロンを実際に体験し、卒業年次では実社会における研修を実施している。その結果、本年度の就職率は、全卒業生に対し88%、就職希望者96%という高い実績を達成した。（なお、文部科学省の「就職率」の取り扱いについての通知に従い、自営業、家事手伝い、進学等の数値は含めていない。）

5) 学生募集

東京都内の動物系学科・コースを持つ専門学校10校の中で、本校の特色を多くの出願検討者に認知してもらえる機会を与えるため、年34回の体験入学や説明会等の行事を実施した。参加者数は昨年比で増加し、出願数は目標に達した。しかしながら、今後、18歳人口の減少、都内大学進学率の増加、通学時間の減少により、専門学校の学生募集はより困難を強いられると予想される。したがって、本校や分野の特色のみならず、専門学校という教育機関の魅力を発信することが必要である。

課題と解決方策

- ・今後、18歳人口の減少、都内大学進学率の増加、通学圏の減少により、専門学校の学生募集はより困難を強いられると予想される。したがって、本校や分野の特色のみならず、専門学校という教育機関の魅力を発信することが必要である。
- ・退学率の低減に対しての対応を早急に検討する必要がある。出席率低下の学生の早期発見に努め、学年主任やクラスアドバイザー（担任）、アシスタントアドバイザー（副担任）と学生、保護者の面談を行い、指導を行う。また、クラスアドバイザーやアシスタントアドバイザーとの面談も定期的に行い、学生の不安を軽減させる。また、状況に応じてスクールカウンセラーの紹介を行う。
- ・施設が老朽化しており、環境整備計画を中長期構想委員会等で検討していく。
- ・教職員一丸となり動物看護師統一試験の合格率の向上のために、模擬試験の定期的な実施や試験対策講座の実施、苦手分野の強化対策等を行う。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	
1-1-1	理念・目的・育成人材像は、定められているか
1-1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか
1-1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか
1-1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・建学の精神「生命への畏敬」、「職業人としての自立」に基づき、動物の保護及び管理に必要とされる知識、技術並びに教養を修得した優れた人材を養成する。 ・3つのポリシー - アドミッションポリシー ・本校の建学の精神と教育理念に共感する者 ・動物に深い理解と愛情を持ち、人と動物の豊かな共生を目指す者 ・動物に関わる職業を目指し、コミュニケーションを大切にする者 - カリキュラムポリシー ・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。 ・専門科目および総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに、学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身に付け、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。 - ディプロマポリシー ・就業年限以上在籍し、所定の時間数を修了した学生に対して、卒業を認定し、動物管理専門課程の専門士（文化・教養専門課程）の称号を授与する。 ・人と動物の架け橋となる動物のスペシャリストとしての使命感を有し、動物看護、グルーミング、トレーニング等に関する知識、技術および能力を身に付けている。 ・一般財団法人動物看護師統一認定機構認定の認定動物看護師をはじめとし、NPO 法人日本動物衛生看護師協会認定の Animal Health Technician（動物衛生看護師）、Dog Grooming Specialist（犬の美容師）、Cat Grooming Specialist（猫の美容師）、Companion Dog Trainer（家庭犬のしつけ訓練士）、Canine Rehabilitation Therapist（犬の理学療法士〈基礎〉）等の6つの資格の取得を目指す。	・基礎科目では、動物看護学の基礎を中心に必要な能力を養う。 ・専門科目及び総合科目では、動物看護、グルーミング、トレーニングの基礎を中心に学ぶとともに学内外のグルーミングサロンや動物病院等での実習で実践力を身に付け、専門性を高め、即戦力となる技術を修得する。 ・ヤマザキ動物看護専門職短期大学設置認可に伴い、動物看護・美容学科（3年制 入学定員80名）を募集停止し、ヤマザキ動物看護専門職短期大学に改組した。また、動物美容・トレーニング学科（2年制 入学定員40名）及び動物看護学科（2年制 入学定員40名）の募集を停止するとともに、平成31年度より動物看護学科を動物看護師統一認定機構の新コアカリキュラムに対応した動物看護・美容・トレーニング学科（2年制 入学定員40名）に名称変更するため、渋谷区へ届出を行った。

基準 2 学校運営

評価項目	
2-2 運営方針	2-2-1 理念に沿った運営方針を定めているか
2-3 事業計画	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか
2-4 運営組織	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか
2-5 人事・給与制度	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか
2-6 意思決定システム	2-6-1 意思決定システムを整備しているか
2-7 情報システム	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・教職員連絡会において、運営方針・事業計画等を教職員に周知した。 ・学校関係者評価委員会において、教育方針・目的を検討した。 ・教務の意思決定については、原則教務委員会、カリキュラム編成小委員会、事務部と教育部の会議及び連絡会を行い、情報共有した。 ・ヤマザキ動物専門学校教務委員会要項において、教育課程の編成に関する事項を審議した。 ・人事、給与に関する規程等は整備されている。 ・教務の意思決定については、原則教務委員会、カリキュラム編成小委員会、事務部と教育部の会議及び連絡会を行い、情報共有した。 ・前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定している。 ・サイボウズ（イントラネット）及び学校事務支援システム（スクールリーダー）により、業務の効率化を図った。	・財務については法人本部の要請を受け予算を提出している。 ・前年度末に学園の運営方針に沿った事業計画を策定している。

基準 3 教育活動

評価項目	
3-8 目標の設定	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか
	3-8-2 学科毎の修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか
3-9 教育方法・評価等	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか
	3-9-2 教育課程について、外部の意見を反映しているか
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか
	3-9-4 授業評価を実施しているか
3-10 成績評価・単位認定等	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか
3-11 資格・免許の取得の指導体制	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか
3-12 教員・教員組織	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか
	3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・教務委員会、カリキュラム編成小委員会を設置し、充実を図った。 ・学科毎の教育課程の編成や学習時間の確保は概ね成されている。平成 31 年度より動物看護学科は動物看護・美容・トレーニング学科に名称変更し、動物看護師統一認定機構推奨のコアカリキュラムに準拠した教育課程編成とする。既存学科についても必要時間を確保できるよう努めた。また、平成 31 年度より講義と実習の接続性を持ったものに編成されるように再編成した。 ・学校関係者評価及び教育課程編成委員会を実施し、卒業生・関連する業界・機関から意見や評価を頂いた。 ・授業評価アンケートにて在校生から授業内容についての意見を聴取し、担当教員へフィードバックした。 ・研修先訪問、求人先訪問にて研修生や卒業生の様子や指導内容に関しての要望等があれば教育部へフィードバックしている。 ・各科目終了後に授業評価アンケートを実施し、結果を担当教員にフィードバックした。 ・カリキュラムの分野バランスを毎年見直し、教員組織を整備している。	・求人先訪問や卒業生から実際の現場での要望を聞き、授業内容に反映させている。 ・平成 31 年度より動物看護師統一認定機構の新コアカリキュラムに準拠するため、教育課程の見直しを行った。 ・通常の授業の他に、定期的な模擬試験の実施、放課後対策や直前対策等を行った。 ・現場経験のある教員を多く採用し、授業の質向上を行っている。 ・教職員の研修・講習会終了後は、校内で報告会を行い、情報共有をした。

基準 4 学修成果

評価項目	
4-13 就職率	4-13-1 就職率の向上が図られているか
4-14 資格・免許の取得率	4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか
4-15 卒業生の社会的評価	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・きめ細かい学生支援をモットーとして、多様化する学生の気質や職業観に対応できるように、学生の立場に立って相談・指導を実施した。 ・毎年、就職先に対して卒業生の在籍状況を調査しており、卒業生に回答を依頼した。また、卒業生の掲載記事を就職支援課にてファイルをし、学生が自由に閲覧できるようにした。 ・認定動物看護師取得率の目標を設定し、通常の授業の他に、対策講座を実施した。受験年次だけでなく入学直後から資格取得を意識させるよう工夫した。	・本年度は全卒業生に対して 88%の就職、就職希望者のうち 96%の就職となり、目標を達成した。 ・卒業後の就職先への在籍調査では、平均勤務年数は 7.0 年であった。 ・動物看護師統一認定試験の合格率は 90.4%（動物看護・美容学科 88.5%、動物看護学科 100%）であった（全国平均 86.5%）。

基準 5 学生支援

評価項目	
5-16 就職等進路	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか
5-17 中途退学への対応	5-17-1 退学率の低減が図られているか
5-18 学生相談	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか
5-19 学生生活	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか
	5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか
5-20 保護者との連携	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか
5-21 卒業生・社会人	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか
	5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか
	5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・就職支援課職員が常駐し、就職相談ができる環境である。 ・日常的に学年主任、クラスアドバイザーと情報交換をし、学生の微細な変化にも対応できる体制が整っている。 ・クラスアドバイザー制度により、一人ひとりに適正なアドバイスをおこなっている。また、定期的にクラスアドバイザー、アシスタントアドバイザーによる会議を行い、学生情報の共有をした。 ・入学にむけた支援や入学後の支援として、特待生制度、奨学金制度、学費分納・延納支援などの制度を整備している。 ・学校保健安全法及び本校学則第 30 条に基づき各学年で年 1 回の健康診断を実施した。 ・夏休みに希望する保護者との面談の機会を設けた。 ・同窓会ではホームページでの情報発信を行った。 ・卒後教育に対する体制は NPO 法人日本動物衛生看護師協会と連携を取り、グルーミングセミナー等を実施している。	・就職活動前より就職支援課による個別面談を行い、就職が決まるまで何度でも相談を重ね、就職指導を行った。 ・就職指導に関しては個別に面談し、社会人の適性に合わせた就職先を紹介している。 ・欠席者の把握を、サイボウズを使って学内で即日確認できる仕組みを作っており、教職員全体で学生の情報共有を行い、サポートをした。また、無断欠席者や欠席が続く学生に対してはクラスアドバイザーより学生へ連絡を取っている。また、長期欠席者に対してはクラスアドバイザー、学年主任で面談を行っている。 ・動物愛護フェスティバル、キャットショー、譲渡会等へ学生から希望者を募りボランティア参加をした。

基準 6 教育環境

評価項目	
6-22 施設・設備等	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか
6-23 学外実習、インターンシップ等	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか
6-24 防災・安全管理	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・ 渋谷キャンパス 2 号館及びレインボーホールの不具合に対し、可能な範囲の修繕を行った。 ・ 平成 31 年より新図書館（エバーグリーンライブラリー）が竣工するため、工事を行った。 ・ 併設のアニマルメディカルセンター及びシブヤドッグビューティにて、就職活動に先駆け就業体験を積ませている。 ・ 卒業年次では、各自で動物病院、グルーミングサロン、ペットショップ等で研修を行っている。 ・ 今後のインターンシップの在り方について、インターンシップ小委員会を立ち上げ、検討した。 ・ 学校防災に関する計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルは整備中であるが、施設・設備の耐震化や備品の転倒防止などの安全管理は徹底している。 ・ 学生及び教職員は定期的に避難訓練を実施するなど、防災研修・教育を行った。 ・ 学校安全計画や学生の生命と学校財産を守るための防犯体制の整備は若干不足しているが、薬品等の危険物の管理においては定期的にチェックを行い、安全管理を徹底している。 ・ 授業中に発生した事故等に関する対応マニュアルを適切に運営している。 ・ 海外研修旅行、国内研修旅行の担当職員を明確化し安全管理体制の整備を心掛けている。	・ 研修先には、就職支援課職員が事前説明に伺い、インターンシップ後はクラスアドバイザー（担任）、アシスタントアドバイザー（副担任）が訪問し学生の様子をヒアリングしている。 ・ 海外研修については、本年度は希望者が少なかったため、実施しなかった。 ・ 海外短期留学は姉妹校であるヤマザキ動物看護大学と合同で行った。 ・ 平成 31 年度には渋谷キャンパス 2 号館に新図書館（エバーグリーンライブラリー）が竣工するため、消防計画を作成し直す必要がある。

基準 7 学生の募集と受入れ

評価項目	
7-25 学生募集活動は、適正に行われているか	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか
	7-25-2 学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか
7-26 入学選考	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか
7-27 学納金	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか
	7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・学生募集活動において、本校の情報を具体的かつ分かりやすく提示するため、学校案内や募集要項内容の明確化はもちろんのこと、就職や入試などの問い合わせが多い事項についての資料も制作した。 ・1都3県の高校を中心に、進学ガイダンスへの参加、高校訪問を行うことで、高校生と高校教諭に対し、本校の情報提供を行った。 ・オープンキャンパスを年34回開催しており、全ての日程で個別相談も合わせて行うことで、受験生、保護者に対し、各々の不安や疑問を取り除くことに力を入れた。 ・入学試験では、AO入試のエントリーと出願を区別し、内定等も一切出していない正規の実施方法に沿って行っている。	・特になし

基準 8 財務

評価項目	
8-28 財務基盤	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか
8-29 予算・収支計画	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか
	8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか
8-30 監査	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか
8-31 財務情報の公開	8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・経常的収支・臨時的収支ともバランスが取れており、財務について会計検査が適正に実施された。 ・予算編成後、より実態に合わせた補正予算を年度内に実施した。 ・情報公開は HP への公開、保護者への郵送等で実施した。	・財務については法人本部の要請を受け予算案を提出している。

基準 9 法令等の遵守

評価項目	
9-32 関係法令、設置基準等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか
9-33 個人情報保護	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか
9-34 学校評価	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか
9-35 教育情報の公開	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・自己点検・評価報告書の作成、学校関係者評価を実施し、報告書をホームページにて公開した。 ・学校関係者評価で頂いたご意見は学校運営、教育へ活かしている。	・設置基準等不明確な事案については、適宜渋谷区私学主査に相談、指示を仰いでいる。

基準 10 社会貢献・地域貢献

評価項目	
10-36 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
10-37 ボランティア活動	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

総括	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
・動物愛護協会他、動物関連企業等への協力実施や、ボランティア活動や学生のボランティア活動支援を実施した。	・動物愛護週間中央行事実行委員会が主催する「動物愛護フェスティバル」に本学園として参加した。会場には、本校のグルーミングの教員による実演も行われ、本学園のブースには多くの方が来場された。 ・動物看護師の地位向上や動物福祉活動の一環として、渋谷キャンパス 1 号館 1 階に公益社団法人日本動物福祉協会新東京支部を置き、犬や猫に対して新しい飼い主を探す「ペットハッピーホームプログラム」への協力や、渋谷区が主催し地域交流を目的とした「渋谷区防災フェス」へのブース出展を実施した。 ・卒業生を対象にしたグルーミングセミナーや国際セミナー等を開催した。